

学番	47	県立分水高等学校
----	----	----------

学校自己評価

令和5年度

学校自己評価表(報告)

学校運営計画		
学校運営方針	・学校経営の基本方針 教育目標「高い知性、たくましい心身、豊かな情操を養い、自律協働を実践する人間の育成をめざす」 ○ 小規模校の強みを生かして、一人ひとりを伸ばす丁寧な指導を行う。 1 学習、部活動、学校行事の調和を目指す学校 2 時間を守り、明るい挨拶を行い、校内美化に努める学校 3 生徒と教師、保護者と教師が信頼と期待でつながる学校 令和5年度の具体的な目標「確かな学力を養い、豊かな人間力を育てる」 1 授業、課題、補習を通して、どんな進路にも対応する学力を定着させる。 2 授業、ホームルーム、部活動、生徒会行事等を通して、自律協働の態度を育てる。	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
【成果】 ○ 進路実現(括弧内はR3年度) ・大学等進学率 41.3%(25.7%) ・専門学校等進学率 38.1%(55.4%) ・就職 19.0%(18.9%) (R4年度達成率 98.4%) ○ 部活動実績 ・北信越総体 カヌー部(C-1)5位、9位 (K-1)7位、(K-2)8位、(K-4)2位 (WC-1)1位 ・インターハイ カヌー部(WC-1)500m5位、200m5位 ・国体 カヌー部(WC-1)500m6位、200m6位 【課題】 ○ 生徒指導 ・自主性を尊重した基本的生活習慣の確立の徹底 ・生徒個々の実態に応じたきめ細かい指導 ○ 進路指導 ・学年と連携した組織的進路指導 ・正しい自己理解に基づく「強い心」の育成 ・総合的な探究の時間等を活用したキャリア教育 ・21世紀を生き抜く有為な人材の育成 ○ 特別活動 ・部活動、学校行事をととした学校の活性化 ・生徒の能力開発 ・コミュニケーション能力の育成	・授業、課題、補習、模試等をとおしてどんな進路にも必要な基礎学力を定着させる。	・わかりやすく、楽しく、ためになる授業を推進し、授業評価においては「わかりやすい75%」を目指す。 ・年1回以上、授業を公開し合評会を行うとともに、授業改善を図り「授業力」を高める。 ・生徒の学習時間の充実をはかる。 ・読書の習慣を身につけさせ図書の貸し出し数を増加させる。 ・校外模試等を有効活用し、全国に通用する学力を目指す。
	・適切な進路指導と進路保障を推進する。	・入学時の進路希望を、学力を理由にあきらめることのないよう指導する。 ・就職希望生徒において、一次応募全員内定を目指す。 ・国公立大学合格者2名以上を目指す。
	・組織的な生徒指導体制を確立する。 ・教育活動全体を通じて学校生活における充実感の向上を図る。	・全教職員の共通理解と協力体制を構築する。 ・挨拶の励行、交通事故0を目指す。 ・生徒会活動、委員会活動の活性化を行う。 ・高校生活満足度90%を目指す。
	・ホームルーム、部活動、生徒会行事をとおして、自律協働の態度を育てる。	・学習指導要領の趣旨に基づき、主体的な生徒会活動を指導する。 ・全校ボランティア清掃や地域での行事等を通じ、地域に密着した学校づくりを推進する。 ・部活動の更なる活性化を図り、心身を鍛練し、自主性、自律性を育成する。 ・生徒会行事や学校行事を通じて、豊かな人間関係の育成を図る。
	・特色ある教育活動を推進する	・総合的な探究の時間等において、地域課題解決型キャリア教育を整備する。 ・大河津分水・長善館・良寛を教材とした「郷土についての学習」および「人権教育、同和教育」を通じて、道徳教育を推進する。 ・燕市・弥彦村との協働事業を推進し、地域の人づくりに貢献する。 ・総合的な探究の時間を活用した本校ならではの「在り方・生き方」を深める教育を推進する。 ・本校の特色ある教育活動を多くの方に知っていただくための広報活動(体験入学、中学校訪問、HP)を充実させる。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	評価	評価
教務	生徒の可能性を最大限伸ばす教育計画の立案および円滑な学校運営	(1)年間行事計画・月暦・時間板編成・教材・奨学金などを適切に立案・調整し実施する。	A	A	A
		(2)円滑で支障のない授業・行事の調整・実施および日課・各種庶務の円滑で適切な実施をする。	A		
		(3)各種調査統計の実施と他分掌等への適切な情報提供および広報業務を行う。	B		
	年1回以上、授業を公開するその機会を生かして、授業改善を図り「授業力」を高める	(1)PTA総会等に合わせて授業公開日を設ける。	A	A	
		(2)授業公開後、参観シートを書いてもらう。それを基に授業改善を図る。	B		
	生徒の学習時間の充実を図る	(1)行事計画の調整・見直しを行い、年間授業時数を確保する。 (年間授業総時数1085時間の確保)	A	B	
		(2)年間自習率を1.3%未満に抑える。	B		
		(3)学年等と連携しながら、生徒の出席率の向上を目指す。	B		
		(4)学年等と連携しながら家庭学習時間の定着を目指す。	B		
	読書の習慣を身につけさせ図書の貸し出し数を増加させる 図書委員の自主的な活動を促す	(1)委員会活動(書籍の貸し出し当番、書籍の整理、図書だよりの作成等)を行わせることで、図書委員の自治的能力の育成を図る。	A	A	
		(2)図書室の活用を促し、書籍の貸し出し数を増やす。	A		
		(3)「図書だより」を発行し、グーグルクラスルームでも閲覧できるようにする。	A		
	視聴覚機器を活用し学校行事等を円滑に行えるようにする	行事の際、視聴覚機器の準備を視聴覚委員と協力して行い、生徒の自治的能力の育成を図る。	B	B	
	保護者、後援会、教職員が綿密に連絡協力し、生徒の健全な成長と分水高校の発展を図る	(1)PTA研修行事の参加人数向上を目指す。	B	B	
		(2)PTA新聞を年1回発行する。	A		
		(3)公開授業の参観率20%を目指す。	B		
	ホームページの充実およびIT環境の改善・維持	(1)ホームページ上で学校の様子を迅速に保護者などに知らせる。	B	B	
(2)校内LANの使いやすい環境を維持、整備する。		B			
(3)校務支援システムにおける成績処理を整備し活用する。		A			
清掃の徹底を図る	清掃がしやすいような工夫と、清掃用具の定期的な点検を行う。	A	A		
	ごみの分別とルールの徹底を図る。	A			
	教育現場にふさわしい清潔な学習環境になるよう、しっかり清掃に取り組ませる。	A			
保健業務の運営を行う	全校を対象に保健教育を行う。	A	A		
進路指導	入学時の進路希望を、学力を理由にあきらめることのないよう指導する	3年間を見通した進路希望調査に基づき、進路希望を具体化させる。そのために必要となる情報を進路講演会や進路ガイダンスをとおして提供し、きめ細かな指導に努める。	A	A	A
		「進路のてびき」の有効利用を図る。また、生徒・保護者へ進路希望実現に役立つような情報の提供に努める。	A		
	公務員・民間就職達成率100%を目指す	就職希望者の企業見学や就職ガイダンスなど積極的な就職活動により、希望者全員の内定を実現させる。	A	A	
	進学達成率100%を目指す	進学補習への積極的な参加を促す。大学等進学希望者には校外模試を必ず受験するように指導する。生徒の基礎学力の向上及び受験に対応できる学力の向上を図る。小論文指導や面接指導においては全職員の協力を得て、より充実した指導体制にする。	A	B	
		共通テスト受験者が確実に学力をつけるように進学補習や特別編成授業を実施するとともに、最後まで粘り強く指導する。	B		
校外模試等を有効活用し、全国に通用する学力を目指す	模擬試験データの有効な活用を図り、職員会議等でデータを公表することで全体で情報を共有し、今後の学習指導、進路指導の一助とする。	B	B		
生徒指導	・全教職員の共通理解と協力体制を構築する	生徒に規範意識を身につけさせ、快適な学校生活が送れるように指導する。	A	A	A
		問題行動(特にいじめ)に対する職員の協力体制を構築する。	A		
		貴重品の管理方法を確立して、盗難被害をなくす。	A		
	・ホームルームの内容を充実させる	生徒総会が活発な意見交換の場になるように指導する。	A	A	
		交通講話と薬物乱用防止講話の実施。	A		
	・挨拶の励行、高校生としてのあるべき服装、交通ルールの遵守等社会生活に不可欠なマナーが身につく指導を行う	学校生活において、服装・頭髪等の身だしなみの指導を徹底する。	B	A	
		交通安全を心がけさせ、正しい交通マナーを体得させる。	A		
		運転免許の無断取得がないよう指導の徹底を図る。	A		
	・学習指導要領の趣旨に基づき、主体的な生徒会活動を指導する	生徒の意見を反映し、よりよい行事を実施する。	A	A	
		生徒会執行部員の自主性を尊重し、積極的な運営状況になるよう指導する。	A		
	・心身を鍛練し、自主性、自律性を育成する	部活動への積極的な参加を促し、部活動を活性化させる。	A	A	
		ボランティア活動や委員会活動への積極的な参加を促す。	A		
	・豊かな人間関係の育成を図る	相談室を担任と生徒の面談に積極的に使えるような環境を整える。	A	A	

1学年	基本的な生活習慣と規範・道徳意識の定着	登下校時の挨拶、授業の始まりと終わりの挨拶等の校内の挨拶を徹底する。	B	B	B
		学校生活における良好な人間関係を構築する。	A		
		校則遵守を徹底する。特にスマートフォンは節度をもって使用する。	B		
	基礎学力の伸長と定着	模試等を有効に利用して学習到達状況の把握を図る。	B	B	
		宿題、週末課題等を用い、家庭学習の習慣化を図る。個人面談等を通じて、進路目標を設定し、学習到達状況を確認しながら、支援していく。	B		
		週末課題や提出物を、期限を守って、不備なく提出させる。	A		
	「総合的な探究の時間」を通じて地域理解を深め、本校ならではの「在り方生き方」を深める教育を推し進める	燕市の歴史、文化、経済について学び理解を深める。	B	B	
		燕市で活躍する人たちの講演を聞き、働く意義や面白さを知る。	C		
		燕市の魅力について考察し、提案、発表をグループで協力して行う。	A		
	豊かな心の涵養 (教科の活動以外への積極的参加)	部活動、生徒会活動、学校行事などへの積極的な参加を促す。	B	B	
「総合的な探究の時間」の延長で校外での活動に興味を持たせ、積極的な参加を促す。		B			
2学年	基本的な生活習慣の確立と規範・道徳意識の定着	登下校時の挨拶、校内での挨拶を徹底する。	A	A	A
		学校生活における良好な人間関係を構築する。	B		
		校則遵守を徹底する。特にスマートフォンは節度をもって使用する。	B		
	基礎学力の伸張と定着	模試等を有効に利用して学習到達状況の把握を図る。	A	A	
		宿題、週末課題等を用い、家庭学習の習慣化を図る。個人面談等を通じて、進路目標を設定し、学習到達状況を確認しながら、支援していく。	A		
		週末課題や提出物を、期限を守って、不備なく提出させる。	B		
	総合的な探究の時間を通じて自己の「在り方生き方」を深める教育を推し進める	進路探究・・・進路選択のための、資料請求やオープンキャンパスへの参加を促し、生徒の積極的な活動を支援する。	A	A	
		地域探究・・・地域の産業等を研究し、進路選択に役立つ学習を行う。	A		
		修学旅行探究・・・平和学習などの事前学習を行い、生徒が主体的に参加する充実した旅行となるように支援する。	A		
		個人やグループでテーマを決めて主体的に探究する学習を行う。	B		
	豊かな心の涵養 (教科の活動以外への積極的参加)	部活動、生徒会活動、学校行事などへの積極的な参加を促す。	A	A	
		「総合的な探究の時間」の延長で校外での活動に興味を持たせ、積極的参加を促す。	B		
3学年	卒業にふさわしい学力の育成と学習習慣の定着	・授業を通じて一層の基礎学力定着を図る。	A	A	A
		・定期考査の成果を目標とした学習計画を立てさせ、記録をつけることを習慣化させる。	B		
		・メディアコントロールを意識させ、自己管理能力をつけさせる。	B		
	適切な進路指導と進路希望の達成	・進路希望の進路決定100%を目指す。	A	A	
		・個別面談を通じたきめ細かい進路指導を行う。	A		
		・進路希望達成のための主体的行動を促す情報を提供する。	B		
	ホームルーム活動・学校行事への積極的参加	・年間計画に基づいて計画的にホームルーム活動を実施する。	A	A	
		・ホームルーム活動・学校行事を通じた集団活動を充実させ、望ましい人間関係の醸成を図る。	A		
	「総合的な探究の時間」を活用した「生き方」を深める教育の推進	・各種講座の内容を理解し、社会人に必要とされる常識やマナーを身につけさせる。	A	A	
		・各種講座の内容を理解し、社会人に必要とされる望ましい人間観、道徳観を育成する。	B		
国語	・学習指導要領に基づき、学力を保障するシラバスを作成し、授業を実施する	シラバスに基づいた計画的な授業を展開する。	B	B	A
	・学習意欲を引き出し、基礎学力の定着を図る授業を行う	漢字の小テストなどを定期的実施し、基礎学力の充実を図る。	A	A	
		定期考査の不振者に対して学期毎に補習を実施し、きめ細かい指導に努める。	A		
		漢字検定を奨励し、漢字能力を高めるとともに、漢字学習に対する意欲向上を図る。	A		
	・55分授業を活用した授業展開を工夫する	チャイムと同時に授業を開始し、55分の授業時間を十分に活用した授業展開を工夫する。	A	A	
		授業進度や指導内容の確認を担当者間で綿密に行い、授業内容の充実を図る。	A		
		教員相互の授業参観を積極的に行い、授業力向上のため助言・指摘を行う。	B		
	・適切な課題により授業の効果を高める指導の工夫を行う	適切な課題を用いた授業内容を工夫し、生徒が関心・意欲・興味の持てる授業を行う。	A	A	
		関心・意欲を高めるために外部団体の実施するコンテスト等に積極的に応募する。	A		
・進路実現のための実力養成を図る	長期休業中に進学補習を実施することで、学力の向上と進路実現の達成に資する。	A	A		
地歴公民	・学習指導要領に基づき、学力を保障するシラバスを作成し、授業を実施する	シラバスに基づいた計画的な授業を展開する。	A	A	
		年1回以上、授業を公開し合い評会を行うとともに、授業改善を図り「授業力」を高める。	A		
	・学習意欲を引き出し、基礎学力の定着を図る授業を行う	基礎学力を重視した「分かる授業」を実施する。	A	A	
	・55分授業を活用した授業展開を工夫する	チャイムと同時に授業を開始し、55分の授業時間を十分に活用した授業展開を工夫する。	B	B	
	・適切な課題により授業の効果を高める指導の工夫を行う	単元ごとや定期テスト前などに課題に取り組ませ学力の定着を図る。	A	A	
	・校外模試等を有効活用し、全国に通用する学力を目指す	大学進学等をめざす生徒に対する授業の実践と個別指導の実施	A	A	

数学	・学習指導要領に基づき、学力を保障するシラバスを作成し、授業を実施する	シラバスに基づいた計画的な授業を展開する。	A	A	A
		科会で進度の確認や指導内容の情報交換を綿密に行い、個々の授業力の向上を目指す。	A		
	・学習意欲を引き出し、基礎学力の定着を図る授業を行う	授業内容を工夫し、生徒が感心・意欲・興味の持てる授業を行う。	A	A	
		教員相互の授業検討を行い、授業力向上のため助言・指摘を行う。	A		
		進学を目指す生徒の基礎力を定着させるための授業を行う。	A		
	・55分授業を活用した授業展開を工夫する	チャイムと同時に授業を開始し、55分の授業時間を十分に活用した授業展開を工夫する。	B	B	
・適切な課題により授業の効果を高める指導の工夫を行う	適切な考査や課題を用意し各自が何を身につけるべきかを明確にすることで、学習の効果を高める。	B	A		
	模擬試験前後に補習を行い、進路を意識して学習に取り組むように指導する。	A			
理科	・学習指導要領に基づき、学力を保障するシラバスを作成し、授業を実施する	シラバスに基づいた計画的な授業を展開する。	A	A	A
		年度末にシラバスを見直し、来年度のシラバスを改善する。	A		
	・学習意欲を引き出し、基礎学力の定着を図る授業を行う	演示実験、生徒実験を通して理科に関心を持たせ、理解を深める。	B	B	
		教員相互で情報交換を密にして、生徒個々の学力向上を図る。	B		
		成績不振者に対して補習や追試を行い、きめ細かい指導に努める。	A		
	・55分授業を活用した授業展開を工夫する	チャイムと同時に授業を開始し、55分の授業時間を十分に活用した授業展開を工夫する。	A	A	
		授業内容を工夫し、生徒が意欲・関心を持てる授業を行う。	B		
	・適切な課題により授業の効果を高める指導の工夫を行う	適切な課題を用いて授業内容を工夫することで、生徒が関心・意欲・興味の持てる授業を行う。	A	A	
模試や共通テストを考慮した課題を用いた授業、補習を行うことで、学力向上と進路実現の達成に資する。		B			
保健体育	・学習指導要領に基づいたシラバスを作成し、授業を実施する	シラバスに基づいた計画的な授業を展開する。	A	A	A
		教員相互の授業参観を行い、授業力向上のため助言を行う。	A		
	・基礎体力の向上を図り、健康の保持増進に生徒がより関心を持つことのできる授業を行う	授業内容を工夫し、生徒が関心・意欲・興味の持てる授業を行う。	A	A	
		基礎体力の向上や心と体の健康の保持増進について生徒が自ら行動できる授業を行う。	A		
	・55分授業を活用した授業展開を工夫する	チャイムと同時に授業を開始し、55分の授業時間を十分に活用した授業展開を工夫する。	A	A	
	・適切な課題により授業の効果を高める指導の工夫を行う	授業前の準備体操や準備運動を主体的に取り組む。	A	A	
実技では互いに協力しあって練習や競技ができるようにする。		A			
英語	・学習指導要領に基づき、学力を保障するシラバスを作成し、授業を実施する	短いスパンの授業計画や評価方針を示しながら計画的に授業を行う。	A	A	A
	・学習意欲を引き出し、基礎学力の定着を図る授業を行う	小テスト(単語、リスニング)を定期的に行い、基礎学力を定着させる。	A	A	
		英語学習につまずいた生徒に対して補習を行い、適切にフォローする。	B		
		単元別テストやパフォーマンステストを評価に加え、4技能をバランス良く評価する。	A		
	・55分授業を活用した授業展開を工夫する	チャイムと同時に授業を開始する。	A	A	
		担当者同士の情報交換を密にし、効果的な授業を目指す。	A		
	・適切な課題により授業の効果を高める指導の工夫を行う	週末課題を出すことによって授業の定着度や実力養成を図る。	A	A	
		模擬テストに対応するため、事前の対策と受験後の解説を行う。	B		
資格試験に挑戦させ、自分の英語力を客観的に評価させる。		A			
成果	新しい行事であった分水ウォークラリーを通じて地元の企業やお店と密接に関わり地域との連携が深まった。また総合的な探究の時間において燕市役所や地域企業と協働しながら充実した活動できた。これらの活動をとおして、自由度の高い課題に取り組む貴重な体験ができた。 学校行事は全て予定通り行われ、それぞれの行事において生徒一人一人が十分に関わることができた。 修学旅行を通じて、集団での行動のルールを学び、人間関係も深めることができた。また、事前学習、修学旅行、事後学習(振り返り)を通じて、生徒一人一人が旅行での気づきを整理し、今後に生かそうとする意識を高めることができた。 進路指導関係では、新潟大学に1人進学するなど、2年連続で国公立大学への進学の実績を作った。また、就職希望者については、面接指導などきめ細やかな指導の結果、概ね希望どおりの企業に内定した。		総合評価		A